

銃をとれ、
想像せよ！

平和の
しまり



Survival Game → → → Maruki Gallery For The Hiroshima Panels

【狙い】

身を以て平和を学習しましょう

サバイバルゲームでは安全に気をつけて戦いましょう

【当日の服装】

- ・動きやすく汚れても良い格好で来ましょう
- ・素肌が出ていると、撃たれた時に痛いので必ず素肌が出ない長袖、長ズボン、運動靴を着用しましょう
- ・帽子、軍手、スカーフがあるとより安全です

【持ち物チェック表】

- ながぎで
- ながずぼん
- 運動靴
- 帽子
- 軍手
- スカーフやネックウォーマーなど首を保護できるもの
- 水分
- おやつ
- おかね
- モデルガン（持っている人のみ）
- レインコート（雨っぽかったら）

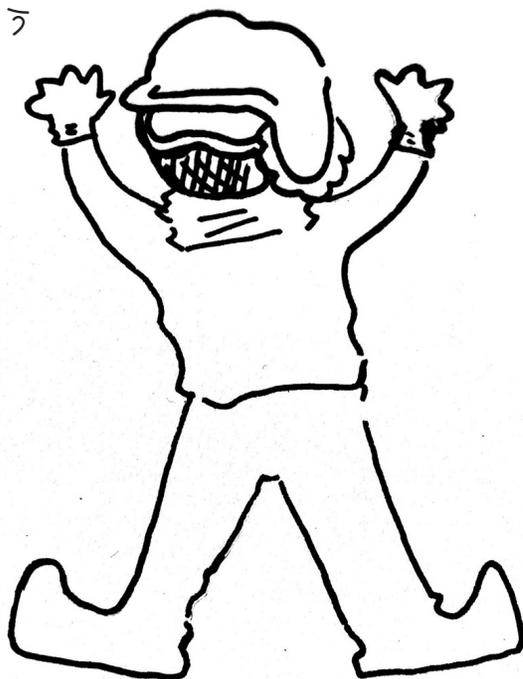
モデルガン、顔面保護マスクは当日貸し出しがあります。

メガネの人はコンタクトの準備がオススメです。

コンタクトの人は予備のコンタクトの準備がオススメです。

多少の雨ならサバゲは決行されるので、お天気が怪しい時は濡れても良い格好（レインコート）をご用意ください。

またサバイバルゲーム会場で着替えることも可能です。



▲こーいう格好がおすすめ

【時間割】

9:00 森林公園駅 南口集合

(JR 池袋駅より東部東上線急行または準急で1時間程度)

9:30-10:00 サバイバルゲームに関するレクチャー

10:00-12:00 東松山市内にてサバイバルゲームに参加

12:00-13:00 昼食 / 移動

13:00-14:00 丸木美術館の鑑賞 & レクチャー

14:00-15:30 キュンチョ×作品「完璧なドーナツをつくる」鑑賞

16:00-17:00 キュンチョ× & 居原田遥によるレクチャー

17:00 頃 現地解散

●雨天決行

雨天の際は予定を大幅に変更する場合がございます（集合時間、場所は変わりません）

●時間に遅れないように気をつけましょう！！

万が一遅れそうなら、こちらに連絡を

080-4292-1229

●昼食はサバゲ会場でお弁当が 500 円で予約可能です。

希望者は事前にメールでご連絡ください。

お弁当などを持ち込んでオッケー！

メール kyunchomedonut@gmail.com



私の父は大のガンマニアだ。家のいたるところに銃や弾倉やスコープが落ちていて、いつでも拾って戦えるようになっている。今流行りの戦争ゲームは我が家ではずっと前から日常だった。"おもちゃの銃"とはいえ重厚な金属で丁寧に作られており一丁3 kg は超えていて、足に落とせば骨折するような代物だ。地下室は武器庫になっていて、長年父が集め続けたおもちゃのアサルトライフルが年中無休で展示されている。父がなぜ銃に目覚めたのかわたしは知らないけれど、前に一度「サバゲーにはいかないの？」と聞いたことがある。すると父は「ああいう嘘っぱちは、嫌なんだ」と答えた。父が集め続ける東京マルイ製のガスガンは"嘘っぱち"ではないのか？と、謎の美学に困惑したことはよく覚えている。

そんな父親に、わたしは一度だけ撃たれたことがある。わたしが幼稚園児にも満たないころの話だ。何を血迷ったのか、家の中でガスガンを撃っていた父親が唐突に私に向かって発砲したのだ。もしかしたら流れ弾がつい当たってしまっただけなのかもしれないし、あるいは空砲を撃ったつもりだったのかもわからない。とにかくその弾はわたしに当たり、わたしは当然のごとく泣き叫んだ。最悪の思い出だ。

BB 弾の重さは 0.2g、初速は 100m/s まで。質量と初速をかけたものを"ジュール"と呼び、1 ジュール以下(正確には 0.98 ジュール以下)が適法となり、それを超えた場合は準空気銃となり違法となる。これは 2006 年の改正銃刀法によって決められた合法エアソフトガンの基準値だ。それ以前は 2 ジュール、3 ジュール超えは当たり前で、10 ジュールを超える"銃"も普通に回っていたという。一般的な実弾 9mm パレベラムが 500 ジュールだそうなので、実銃の 50 分の 1 の威力があるということになる。10m 先のベニヤ板を余裕で貫通したというから驚きだ。父が私を撃ったのは法規制以前の話で、まさにそんなグレーな銃であったというわけだ。当時 5 歳ぐらいの私の皮膚がベニヤ板よりも丈夫なはずもなく、撃たれた直後わたしはバンビのごとく飛び上がり、生まれて一番大きな声を出して泣き叫んだ。その重い痛みは鮮明に脳が記憶しているし、なにより、わたしのお尻には未だにその時の弾の跡が残っていて、たまに撃たれたことを思い出すのだ。おそらく一生消えることがないだろうこの跡と共に、わたしは薄っすらと銃を憎んで生きてきたのだった。

ところで、エアソフトガンには 3 種類のタイプが存在するのをご存知だろうか。一つ目は私が撃たれたガスガン。圧縮されたフロンガスを弾倉に充填し、ガスが放出される力を利用し BB 弾を発射するタイプのものだ。ガスガンの魅力は実銃にも似た強烈なブローバック(反動)だろう。しかしガスの充填が面倒であるため、サバイバルゲームには向かないとされる。二つ目はおもちゃ屋でも目にするエアコッキングガン(通称エアコキ)だ。一回一回バネを引き空気を圧縮させて発射するため、連写はできない。しかし飛距離が稼げるため、サバゲーフィールドでスナイパーを見かけたらそれはエアコキだ。三つ目は言わずと知れた、電動ガンだ。おそらく 2019 年現在市場で出回っているほぼすべてのエアソフトガンはこの電動ガンだ。1991 年に東京マルイが開発した、比較的新しいタイプのエアソフトガンで、リチウムイオンの普及により現在進行形で進化しているのがこのタイプの銃となる。みなさんが今回のツアーで使用するのもこの電動ガンだ。引き金を引けば無反動で秒間 10 発以上の球が放たれる。反動がないため、よりスポーティーに対象を狙い撃つことができる。すなわちそれは、よりスポーティーに撃たれるということだ。しかし心配しないでほしい、さきほど記した改正銃刀法により現在では 0.20g の 6mmBB 弾で初速 100m/s 程度までの銃しか使ってはいけないと厳重に定められており、サバゲ会場ではまずこの法に反しているかどうか全てチェックしていくところから始まる。

サバゲの歴史というのは規制の歴史と共にあると言っても良い。サバゲは 1960 年代にアメリカで行われたペイントボールによるものが発祥であるとされており、それが日本に紹介されたのが 1980 年、マルゼンのエアガン発売と同じ時期となる。90 年代に入るとマルイの電動ガンが登場し、サバゲ人口が一気に増える。一気に増えると問題も多発するわけで、サバイバルゲームに対する悪い印象もこの頃の影響が大きい。廃墟などへの不法侵入、BB 弾というゴミ、そして怪我や事件などが頻発し、これを受けて3つの新しいものが開発された。改正銃刀法、地球に優しいバイオ BB 弾、そしてサバイバルゲームフィールド、というわけだ。なるべく管理された場所で楽しく、他人の迷惑にならないように、そして地球に優しく楽しみましょうという現在のサバゲの方向性がこのころに定められたのだ。暴力性を管理し、サバイバルという意味性を脱構築することで、サバゲーは今日まで生き延びることができたのだ。その後もサバゲにはいくつもの”安全に戦うためのルール”が、プレイヤーたちによって独自に作り上げられてきた。民主的に暗黙のルールが生まれていったのである。いまでは会場ごとに微妙に異なる細かなルールがいくつも存在している。この辺の詳しいことは、当日サバゲ会場でレクチャーを受けるので自分の身を守るためにもぜひしっかり聞いていただきたい。

心配しないでほしい、と書いたが、しかしサバゲに怪我はつきものだ。なんせ撃ち合うのだから、当たりどころが悪ければ失明もするし、歯も折れる。そこでわたしはみなさんに嚴重な装備を強くお勧めしたい。まず、肌は絶対露出しないこと。サバゲのプロ曰く「危ないのは手と耳、そして歯」だという。会場で借りられるマスクは顔全体を覆えるので歯はまず守られるが、残るは手と耳だ。必ず軍手と耳をカバーできる帽子やフード付きの服で来てほしい。戦いが盛り上がってくるとつい気分も上がって匍匐前進などをキメてしまうので、汚れても良い格好であることも必須だ。ちなみに迷彩服である必要は一切ない。なんならジャージでも良い。その辺はあくまで個人の趣味と気分の問題だけだ。武者の鎧をきた人や初音ミクのコスプレをしている人もいれば、パーカーにジーンズの人もある。おもいおもいに戦争ごっこに没入する場所、それがサバゲ会場なのだ。

予言しよう、あなたはきっとサバゲに没入して翌日筋肉痛になる。そのときにふと戦争と平和のことを考えてしまうような、そんなツアーに、今回はしたいと思っている。

LOVE&GUNS に来る道中にぜひ聴いてほしいテーマソングを、キュンチョメ兩名、本企画協力居原田遥が抜粋

※youtube アドレスをクリックすると youtube が開きます

月桃（作・海勢頭豊）合唱バージョン

おすすめの youtube リンク：<https://youtu.be/g2KJoF4Qmp4>

コメント：「月桃の花」は、沖縄の作曲家、海勢頭豊が制作した曲で、太平洋戦争での悲惨な沖縄戦を描いた映画「GAMA(ガマ) 月桃の花」の挿入歌。この曲は、沖縄の慰霊の日に、最もよく歌われる合唱曲として、広く知られています。例えば、小学校・中学校の課題合唱曲として教材に使われたり、平和記念公園で例年開催されている「慰霊の日」の式典では、必ずと言っていいほど、歌い継がれている曲です。おすすめリンクの動画は、2015 年 6 月 23 日の沖縄全戦没者慰霊の式典で、沖縄の小学生が歌ったもの。参列する政治家の光景と合わせて聞くことをおすすめします。(居原田)

himeyuri～ひめゆりの詩～(MONGOL800)

おすすめの youtube リンク：https://youtu.be/fu_77avtO2c

コメント： MONGOL800 の渾身の、いわば平成の「反戦運動」アルバム「people people」に収録されている、代表作（一曲目の楽曲）。上記の「おすすめリンク」も、アップロード元がモンパチの所属レーベル「ハイウェーブ」という公式動画です。この動画も、戦後 70 周年記念の慰霊の日を迎えた当日に、この動画が公開されました。平成に生き残る沖縄の反戦ソング代表と言っても過言ではない（居原田）

3. 銃をとれ（頭脳警察）

おすすめ youtube のリンク：https://youtu.be/cbfDei_yuYI

コメント：「銃をとれ」は、頭脳警察を代表する名曲中の名曲。「革命三部作」の一つです。のおすすめリンクの動画は、1971 年に、頭脳警察が三里塚で開催した伝説的な野外ライブの動画。この曲を聴いて、アドレナリンが自然と高まるような感性を持つ人物が、令和の時代にも存在することを願っています（居原田）

哀・戦士

<https://youtu.be/3ovPD2jJIAQ>

劇場版『機動戦士ガンダム』のテーマソングとして、監督富野由悠季によって偽名で作詞された一曲。タイトルの印象とは裏腹に、とても威勢のよいアップテンポな曲調で、“愛”ではなく“哀”を歌う。全共闘上りの安彦良和 & 富野氏によって中道寄りの反戦反核のメッセージを込めて制作されたはずのガンダムであったが、好戦的でかっこいい戦争アニメとして 40 年以上にわたって消費され続けてきた。制作者が戦争の悲劇を誇張すればするほど、劇的に描けば描くほど、見るものがその中に美を見出し、戦争への情動を掻き立てられていったのだ。その状況こそがまさに“哀”なのではないだろうか。(キュンチョメ)

GONG

<https://youtu.be/1g5suc6qLx8>

『第 3 次スーパーロボット大戦 終焉の銀河へ』の主題歌 GONG。スーパーロボット対戦（スパロボ）は、ガンダムやマクロス、エヴァンゲリオンなど有名なロボットアニメの主役機が総出演する人気のゲームだ。しかし、大量のロボットアニメを取り込んだことで、各アニメが持つ複雑な物語やメッセージ性が消し去られており、わかりやすい二項対立の勧善懲悪の世界に再構築されているのが特徴となっている。そのためか主題歌は極めてナショナリスティック全振りな歌詞となっており、“哀”ではなく、明確に“愛”をぶつけてくる。なんせ『POWER OF LOVE で敵を蹴散らせ』と歌うのだ。しかもこの youtube リンクは自衛隊 MAD バージョンであり、愛国ガンギメ仕様になっている。コメント欄で大勢の若者が日本に誇りを持ち涙しているのを見ながら聞いてほしい。(キュンチョメ)

少年期

<https://youtu.be/3I17i-qxONo>

わたしにとって平和教育とはなんだったか？ということを考えてみたときに、一番最初に思い起こされたのがドラえもんだった。おそらく明確に反戦や平和がドラえもんの中で描かれることは少なかったかもしれないけれど、「環境破壊」や「自己犠牲」が強調された大山のぶ代版のドラえもんは子供のわたしに強烈な印象を与え、人類を考えるきっかけとなっていたのだろう。ドラえもんといえば、わたしは劇場版ドラえもんが大好きで、毎回歌を歌っている武田鉄矢の歌で「切ない」という概念を覚えたのだった。今、武田鉄矢といえば典型的なネットに染まった保守おじさん、という烙印が押されてしまっていることも含めて、この『ドラえもん のび太の宇宙小戦争』のテーマソングであった『少年期』という曲はとても重要であるように思う。本来的に「大人が子供に教えるもの」とされている平和教育ではあるけれど、子供の視点そのものに立ち返ることも、また平和教育なのではないだろうか。(キュンチョメ)

Gas Gas Gas

<https://www.youtube.com/watch?v=atuFSv2bLa8>

50 人のムスリムが銃殺されたクライストチャーチのモスク襲撃事件は、wifi 付きのアクションカムで世界中に実況配信されたヘイトクライムであったという点でも衝撃的な事件であった。配信は約 17 分間行われ、第三者によってキャプチャーされた襲撃映像は一瞬で世界中に拡散されることとなった。モスクの襲撃は二回行われ、一回目の襲撃で約 40 人を殺害し終えた犯人が、次の襲撃場所に移動する際に自らを盛り上げるための BGM として車中でかけていた曲が、この『Gas Gas Gas』という曲であった。この曲は日本の漫画・アニメである『頭文字 D』の挿入歌として有名で、配信はこの曲を最後に終わる。映像を見た日本中のアニヲタが、テロリストがチープなアニソン(ユーロビート)を聞いて、気分を盛り上げていることに衝撃を受けたとともに、犯人が後世動画が残り続けることを意識して BGM を丁寧に選曲して流していたことは、実況配信の時代を象徴する出来事でもあった。以下歌詞を抜粋
Tonight I'll fight to be the winner (今夜僕は勝者になるために戦うよ)
im gonna step on the gas (僕はアクセルを踏んで、)
and you'll see the big show! (そして君は巨大なショーをみることになるよ)
(キュンチョメ)

今こそ立ち上がろう

<https://www.youtube.com/watch?v=Z-QkD2M09Pc>

『今こそ立ち上がろう』は、現在の沖縄の反基地運動を代表する一曲であり、辺野古などを訪れると必ず歌うことになるプロテストソングである。キュンチョメの『完璧なドーナツをつくる』の中でも使用されている。この曲は『Ah! le Joli Mois de Mai Paris』という原曲がもとになっており、その歌は 1968 年パリの五月革命の最中に作られ、歌われた。(原曲 <https://www.youtube.com/watch?v=n0pOS7WZEJo>) その曲を、当時学生運動の真っ只中で投獄されていた加藤登紀子(紅の豚なので有名なシャンソン歌手)が日本語化し(<https://www.youtube.com/watch?v=XtVMQMXivUU>)、その曲を聞いた沖縄平和運動センターの山城博治氏が後に沖縄のプロテストソングとして転用したという顛末を持つ。沖縄に行く前には歌えるようになっておきたい一曲。(キュンチョメ)

ECD 言うこと聞くよな奴じゃないぞ

<https://youtu.be/eESfk-Jhd7k>

「みなさま突然ですが、反戦運動を始めます。名前は「殺すな」です」イラク戦争のゴタゴタで荒れる 2003 年、美術評論家の榎木野衣氏が関係者に一斉メールを送って始まったのが「殺すな」デモと呼ばれる反戦デモであった。そんなイラク戦争(派兵)に反対するための「殺すな」デモのテーマソングとして ECD によって作られたこの曲は、たびたび内容がアップデートされ、選挙のための曲や、反核の曲として、主に路上で歌われてきた。(キュンチョメ)